

拠出金名:経済協力開発機構環境政策委員会化学品プロジェクト拠出金

分担金・義務的拠出金の有無		有(14府省庁)(注1)		無	
当該機関等に対する分担金を含めた平成19年度の拠出総額			8,343,672千円(注1)		
国際機関等名	経済協力開発機構(化学品委員会/工業ナノ材料作業部会) Organization for Economic Co-operation and Development (英文名称・略称) (Joint Meeting of the Chemicals Committee and Working Party on Chemicals, Pesticides and Biotechnology Working Party on Manufactured Nanomaterials)(OECD/JM/WPMN)				
種別	国連(事務局)	国連(基金・計画)	国連専門機関	その他	
所管官庁担当局課名	経済産業省 製造産業局 化学物質管理課				
最近3年間の我が国支払額及びODA率					
単位	邦貨 (千円)	外貨1 (千ユーロ)	外貨2 (千)	レート	ODA率(%)
平成19年度	25,862	175.93		1ユーロ = 147円	0
平成18年度	23,926	175.93		1ユーロ = 136円	0
平成17年度	0	0		-	-
当該拠出金の目的・用途等	工業ナノ材料作業部会事務局運営費				
拠出上位5ヶ国・地域・機関等 (2007年のもの)※				国際機関等の財政 (OECD全体)(2007年度決算)	
	国名	金額 (ユーロ)	拠出率(注2) (%)	当該年度の収入 364,287千ユーロ	
1位	日本	11,093,595	13.59	当該年度の支出 360,518千ユーロ	
2位	EC	6,758,000	8.28	次年度への繰越 3,768千ユーロ	
3位	世界銀行	5,977,133	7.32	会計検査機関名	
4位	英国	4,977,738	6.10	Board of Auditors, Deloitte & Associés	
5位	米国	3,903,691	4.78		
※OECDに対する任意拠出金の総計によるもの					
当該機関等に対する我が国としての評価 (当該機関等の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)					
OECDは、高い分析能力と政策提言能力、自由且つ率直な議論及び主要先進国の横断的な取り組みといった国際機関の強みを活かし、現在組織をあげて規制制度改革の調査・研究に取り組んでおり、我が国としても高く評価している。また、工業ナノ材料作業部会では、ナノ材料の安全性評価の手法の確立に向けた試験法の検討等の我が国の政策に盛り込むための基盤作りとして有益。					
合理化、機能強化のための改革が行われているか。 行われている場合はその現状と我が国としての評価					
OECD全体で組織改革、合理化を検討、推進している。我が国が提案していた負担金の見直し、分担率に応じた加盟投票方式の導入の決定。また、予算配分の見直し、委員会の統廃合等、我が国のイニシアティブによる改革についてはOECDのみならず加盟国からも大きく評価されている。					

「邦人職員数うち幹部以上」以下の項目については「日・経済協力開発機構協力拠出金」の頁(61ページ)参照

(注1)OECD全体を対象としている。OECDへの分担金・義務的拠出金は警察庁、金融庁、総務省、法務省、外務省、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、資源エネルギー庁、原子力安全・保安院、国土交通省、環境省の14省庁予算から支払っている。

(注2)我が国と各国とは会計年度が異なるため、拠出率については暦年となっている。

(参考)OECDへはこの他内閣府、総務省、外務省、財務省、文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省、厚生労働省、特許庁から任意拠出あり。